

2018年3月度(第77期)中間仮決算ダイジェスト

■売上高

22,228百万円

売上高は、前年同期比1,756百万円増加の22,228百万円となった。要因として3月実質完成物件が前年同期と比べ786百万円・進行基準適用工事が前年同期と比べ969百万円増加した為。

■営業利益

2,525百万円

■経常利益

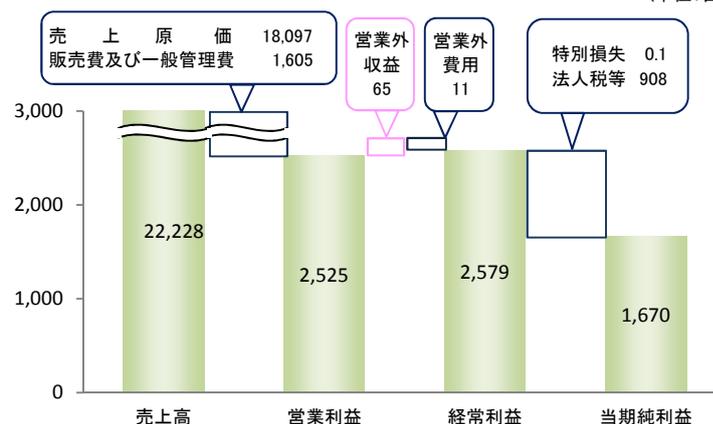
2,579百万円

■当期純利益

1,670百万円

損益計算書の概要

(単位:百万円)



利益は、売上総利益率が前年同期と比べ0.79ポイント低下したため、営業利益で2,525百万円(前年同期比3百万円減)、経常利益は2,579百万円(前年同期比10百万円減)、当期純利益で1,670百万円(前年同期比153百万円増)となった。

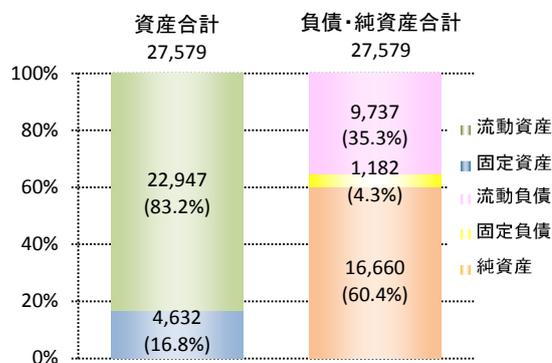
■自己資本比率

60.4%

自己資本比率は60.4%(前年末比4.4%増)となった。総資産の残高は27,579百万円(前年末比2,732百万円減)となった。主因として、配当金支払により現預金が減少した為である。負債の残高は10,919百万円(前年末比2,418百万円減)となった。主因として、仕入債務が減少した為である。純資産は16,660百万円と前年末と比べ313百万円減少している。

貸借対照表の概要

(単位:百万円)



■キャッシュフロー

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に仕入債務の減少によって資金が増加となった。
「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に有価証券の購入により資金が減少となった。
「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に配当金支払により資金が減少となった。
結果、前期末より2,184百万円資金が減少となった。

現金及び同等物 第76期 期末残高	営業活動CF	投資活動CF	財務活動CF	現金及び同等物 第77期 3月期残高
8,293	67	▲ 251	▲ 1,999	6,108

(単位:百万円)

■通期予測

第77期の本決算は、手持工事量の最適化を図ったことで、売上高は510百万円減少の41,670百万円となり、利益は手持工事の利益率低下に伴い、営業利益は2,571百万円、経常利益は2,669百万円、当期純利益は1,690百万円となる見込です。

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
41,670	2,571	2,669	1,690

(単位:百万円)